

みやぎ GPN ニュース vol.14

■「グリーンウォーカー」インターン生が取材しました ⇒ <http://www.miyagigpn.net>

平成30年11月19日(月)に、株式会社ジャパンクリーン常務取締役の杉澤真理音氏、執行役員杉澤二千翔氏を訪ねて仙台市にある管理型最終処分場に伺いました。同社は廃棄物の分別や減容化、安定化することができる中間処理施設が群馬県館林市に、さらには収集運搬も自社でまかなうことができます。廃棄物処理の一連の流れが自社で完結するため、廃棄物を明確で迅速かつ適切に処理することができる会社です。「見ていただける処分場」をスローガンに掲げています。また、

「コミュニケーション」と「早く適切な対応」をモットーに、「廃棄物処理業界が必要産業であることの認知を進めること」、「子どもたちから勤めたいと思われる業界となること」など、産業廃棄物業界を推進していく企業です。第27回グリーンウォーカーとして、『「見ていただける処分場」として地域と共に」というテーマで取材内容を掲載しておりますので、HPをご覧ください。



■「環境講座」の実施

【名取市増田公民館との連携事業として市民向け】

日時：2018年6月15日(金) 13:00~13:30

場所：宮城県名取市立増田小学校 体育館

テーマ：「グリーン購入ってなあに」

講師：みやぎグリーン購入ネットワーク事務局長 山岡 講子

内容：グリーン購入の基礎について



【名取市増田公民館との連携事業として小学生向け】

日時：2018年6月15日(金) 13:30~15:00

場所：宮城県名取市立増田小学校 体育館

テーマ：『かばボン』と考えるもの一生のすごろく

講師：海老原誠治氏(三信化工株式会社)

参加者：増田小学校5年生143名、地元の生活ボランティア20名

内容：「つくる」「つかう」「すてる」というもの一生のすごろくを使用し、CO2について考える



会員数： 123(企業90 団体15 行政18) …A会員(全国会員)94、B会員(みやぎGPN)29

■発行・編集 みやぎグリーン購入ネットワーク事務局

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目10-6

TEL: 022-218-5451 FAX: 022-375-7797

E-mail m-green@miyagigpn.net

URL <http://www.miyagigpn.net>



毎回、好評いただいている「事業所見学会」は今年度も開催予定です。日時・場所などの詳細は決定次第、ご案内申し上げます。今年も会員の皆さまのご参加をお待ちしております。

■寄稿「グリーン購入法の改訂に思うこと」

代表幹事 猪股 宏(東北大学大学院工学研究科・教授)



平成最後の年になりました。このニュースレターは新元号第一号の配信号になることでしょう。その改元直前のこの2月に、グリーン購入法の基本方針が環境配慮契約法と一緒に変更されることが閣議決定されました。その骨格は、大臣の国会説明によると「既存の対象品目のうち24品目について、プラスチックに係る基準の見直しなどを行うとともに、対象品目として新たに印刷機能等提供業務を追加する(平成31年4月)」とのことです。

その趣旨は、海洋ごみ問題をはじめとしたプラスチックをめぐる諸課題について政府として率先した対応が必要であるとの考えから、ワンウェイのプラスチック製品の使用量削減、再生プラスチックの利用促進、バイオマスプラスチックの利用促進等の観点からの見直しということです。その取組のスタートとして、国の所管する委員会などでは、PETボトル飲料を止めマイボトルの持参を推奨するよう徹底させるようです。この方策は、確かに可能などころからのアクションではありますが、PETボトルの回収・リサイクル率を向上させる、あるいはリサイクルの形態を変えることでも、上述した諸課題へ対応できると思いますが・・・、まずはわかりやすい部分からということでしょう。

ところで、今回の改訂の布石は、環境省から2018年に出されている「-for Sustainable Ocean-」というキャンペーンであろうと推察します。ここでは、世界的な海洋プラスチック問題の解決に向けて、個人、自治体、NGO、企業、研究機関等の幅広い主体が連携協働して取組を進めていくことをうたっており、具体的なアイデアや取組事例の紹介もされています。今年のG20の開催国として、今課題の海洋プラスチックの問題に、何か貢献あるいは対処すべく、このキャンペーン+アルファの仕組みとしてのグリーン購入法の改訂があるのでしょうか。

本来のグリーン購入法の理念を考えれば、その基本方針の記載内容の変更なしでも、海洋ごみ問題への対処行動はとれるはずですが、やはり事例とわかりやすい対象を明確にした条文等があれば、一層行政指導や個人行動活性化がし易くなるというのは理解できますので、今回の改訂を契機にワンウェイ・プラスチックのあり方、それに関係する生活様式について、個人が考えることができればと思います。

会員団体の皆様におかれましては独自の思いで、普及底辺拡大を心がけて頂ければ幸甚でございます。

■今話題のSDGsとは?

誰も置き去りにしない世界を目指し持続可能な開発のための2030アジェンダは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択されました。2030年までに持続可能な社会を目指す国際開発目標です。

グリーン購入ネットワークとして皆様とともに取組んでいるのが「12つくる責任、つかう責任」です。G20で取り上げられている海洋プラスチック問題も、つくる者つかう者が責任をもって後始末まで考えれば解決につながる事なのですが、なかなか簡単に出来ない現状です。そこでなぜ2030年までの目標が掲げられたのかをこの機会に一緒に考え一緒に取り組んでいきましょう

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤を作ろう
- 10 人や国の不平等をなくそう



- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任、つかう責任
- 13 気象変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

■平成30年度グリーン購入事業所見学会

日時：平成30年7月5日（木） 主催：みやぎグリーン購入ネットワーク 共催：宮城県 参加人数：19名
見学先：野口商事株式会社（登米市）、アマタ株式会社「南三陸 BIO」（南三陸町）

最初に訪問先の「野口商事株式会社」では、砕石所ならびにミルサンド製造場所を見学し、常務取締役・遊佐様から説明を受けました。同社では、道路舗装やコンクリート骨材などさまざまな砕石を扱っていますが、製造過程で発生する5mm以下の砕石を再利用し、良質なコンクリート骨材ミルサンドとして販売し、宮城県グリーン製品の認定を受けています。



次に訪問先の「アマタ株式会社・南三陸 BIO」では、まず初めに「南三陸町バイオマス産業都市構想」について説明を受けました。この構想は、南三陸町がこれまで近隣の自治体で処分していた生ごみを回収、同社の施設で発酵処理し、そのさいに発生するバイオガスと液肥を再利用して資源循環・雇用促進・町おこしなどをめざすというものです。また、施設見学を行い、バイオマスや液肥を次の以下の工程を見学しました。①生ごみから不適物を除去（可燃／不可燃、発酵可／発酵不可を目視で判断）、②生ごみ粉碎機で発酵に適したサイズへ砕く、③メタン発酵槽で生ごみや汚泥を発酵させてバイオガスと液肥にする、④バイオガスは貯蔵して所内のボイラー／発電機の燃料に、⑤液肥は70℃で1時間、殺菌してから液肥タンクへ貯蔵。

生ごみは1日当たり3.5トン、汚泥は1日当たり7トン进行处理し、液肥は1年当たり約4,500トン、バイオガス約390ノルマル立法メートル（燃料として発電すると1日当たり約600kwh/日）を生産しています。原料（生ごみ）の分別が大きなポイントになっており、同町住民の意識の高さと、協力が当事業にとって不可欠なものと感じました。すべての質問に返答し、見学者の要望にきめ細かく対応していただいたアマタ株式会社・成瀬チームリーダーに感謝いたします。



■「りふ環境まるごとフェア2018」「石巻環境フェア2018」に出展

マイクロプラスチック問題について、下記2件のイベントで、パネル（損保ジャパン日本興亜環境財団のCSOラーニング生とともに作成）、採取した砂（マイクロプラスチック含む）の展示を行いました。また、コクヨ東北販売様より、プラスチック製品の代替えとして段ボール製のオフィス用品を提供いただき、展示しました。

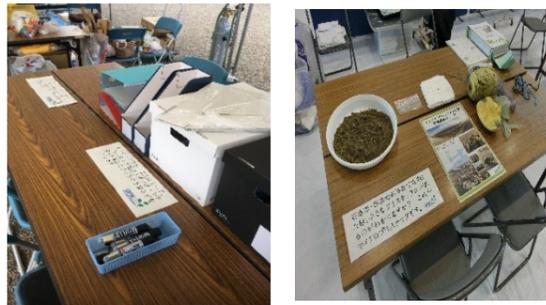


「りふ環境まるごとフェア2018」

日時：平成30年10月7日（日）9：00～16：00
場所：グランディ・21 円形広場（利府町）
主催：りふ環境まるごとフェア2018 実行委員会・利府町
内容：学んで解決！——マイクロプラスチック問題

「環境フェア2018 かなん」

日時：平成30年11月3日（土）9：30～15：00
場所：遊楽館アリーナ（石巻市北村）
主催：石巻市
内容：学んで解決！——マイクロプラスチック問題



■みやぎグリーン購入セミナー①「SDGs とグリーン購入」

日時：平成31年1月24日（木） 会場：宮城県保健環境センター大会議室
共催：宮城県、みやぎGPN 参加人数：28名

2019年1月24日（木）13：00～宮城県保健環境センターの大会議室にて、みやぎグリーン購入セミナーが開催され、多くの方々にご参加いただきました。

共催である宮城県環境政策課 稲村課長のご挨拶後、一般社団法人イマココラボ 榎田綾子様を講師に迎え、カードゲーム「2030SDGs」によるワークショップが始まりました。SDGs とは何か、今なぜSDGsが必要なのかを知るために、気軽に体験できるカードゲームという形で楽しみながら理解を深めることが出来ました。

また、多様な方々と一緒に取り組む中で、自分のチームだけではなく、他のチームや全体の話の聞き、周りの状況も把握すること、自分たちの状況を周囲にも伝える、発信することの大切さも一層強く感じました。驚きと納得のカードゲームでした。

次に、宮城県環境政策課の阿部主査より、グリーン購入と宮城県の取組についての説明があり、さらにみやぎGPN事務局 山岡事務局長よりみやぎグリーン購入ネットワークの取組みの説明と謝辞を述べ、すべてのプログラムを終えました。ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。



■みやぎグリーン購入セミナー②「SDGs への取り組みとグリーン購入」

日時：平成31年3月7日（木） 会場：仙台市民活動サポートセンターセミナーホール
第1部講演＞共催：宮城県、みやぎGPN、第2部情報交換会＞主催：みやぎGPN
参加人数：第1部 28名 / 第2部 25名

○第1部講演

はじめの講演では、サラヤ株式会社/東京サラヤ株式会社 産学官連携事業部部長の竹内光男様から「途上国でのMDGsからSDGsへの取組について」をテーマにお話をいただきました。サラヤ株式会社は、持続可能な原料調達のために、4つの活動を行っています。①洗浄成分が微生物によって水と二酸化炭素に完全分解される未来の洗浄剤の開発、②パーム油生産地の環境と人権に配慮して供給される持続可能なパーム油認証（RSPO認証）の取得、③マレーシア・ボルネオ島に野生のボルネオゾウ保護のための「野生生物レスキューセンター」の建設、④保護林と保護林の間の土地を買い戻し、森を守る活動です。

また、MDGsの取組みとして行われた「カンボジア王国における殺菌入り石鹼液等の普及による衛生状況の改善の為のBOPビジネス事業準備調査」、SDGsの取組みとして行われた「トータルな衛生管理・検査技術の導入による食の安全向上案件化調査」について紹介いただきました。東京サラヤ株式会社は、第1回エコプロアワードの奨励賞を受賞されています。

http://www.jemai.or.jp/ris/lst_eco-pro_award_results.html

続いての講演は、グリーン購入ネットワーク事務局長の深津学治様から「SDGs『つくる責任・つかう責任』を推進するグリーン購入ネットワーク」をテーマに、企業向けには自社の環境面・社会面の取組みを把握する方法として「持続可能な調達アクションプログラム」、自治体向けには担当者の取組みを伸ばす方法として「新任担当者向けグリーン購入研修会（基礎編）」、「エコ商品ネット」などをご紹介いただきました。

○第2部情報交換会

会場内には、以下のみやぎGPN会員企業様から自社の取扱い製品やサービスを紹介する展示を行いました。各企業様から個別プレゼンを行って頂きました。

- ①株式会社エコライフサポート「環境にやさしい商材で、コスト削減も含めて、お手伝いいたします。」
- ②東京サラヤ株式会社「サラヤの環境配慮商品」
- ③有限会社千田清掃「世のため 人のため地球のため千田清掃は実践します！」
- ④ミカド電装商事株式会社「CO2削減ポテンシャル診断事業について」

